

(規則) 様式第7(第7条関係)

## 政務活動費成果報告書

令和7年 2月 7日

犬山市議会議長 柴田 浩行様

議員名 5番 小川 隆広

下記のとおり、視察（京都府福知山市）の成果を報告いたします。

(1) 年 月 日	令和7年 2月 3日(月)～令和7年 2月 4日(火) ( 1泊 2日)
(2) 場 所	NPO法人福知山BGM福祉サービス・NPO法人市民力工房つむぎあい
(3) 形 態	会派( ) その他(小川 隆広)
(4) 内 容	<p>NPO法人が協力・実施する①福知山市災害時の要配慮者の避難について、②福知山市有償輸送ネットワーク(交通空白地)についての2点を基本に視察、調査を行なった。</p> <p>基本情報として、京都府福知山市の人口は74,777人、面積は552.57km<sup>2</sup>であり、犬山市より若干多いものの同程度の人口で、面積が約7倍である。(令和7年市議会手帳より)市の玄関となる福知山駅はJR山陰本線、福知山線、京都丹後鉄道宮福線が分岐する交通の要衝となっている。そのため福知山駅の周辺は栄えており、人の往来で賑わっている。市内に公立と私立合わせて7つ(分校含む)の高校があるため、朝夕の福知山駅前は高校生が多く、駅隣接の「市民交流プラザふくちやま」の図書館やフリースペースで勉強する姿を見ることができた。反面、山間地域に入っていくと過疎化が進んでおり、市中心街から離れた地域で生活する上での困難があり、とりわけ移動の手段では路線バスの廃止、減便、タクシーや介護タクシーの受け皿不足といった課題があった。市内には一級水系の由良川が流れている。この由良川が度々氾濫したことから、浸水や土砂災害への備えが強く意識されている。</p> <p>① 福知山市災害時の要配慮者の避難について 実施内容としては、避難行動要支援者名簿の登録者3000人の</p>



(4) 内容

うち、地域への情報提供同意者 2000 人に個別避難計画を作成、要支援者避難移送サポーター（有償ボランティア）が社会福祉施設や福祉有償運送団体が所有する車両で、災害時の避難を支援するものである。個別避難計画は、福祉専門職（ケアマネージャーなど）と市職員で対象者宅を訪問し、本人、家族から避難に必要となる情報や避難状況などを聞き取り作成している。作成された個別避難計画を基に要支援者個別避難移送計画書が作成されるが、要支援者移送サポーターがそれを見て、どのような移動方法で、どのような介助によって避難所へ移送するのか理解しやすく作成されているのが特筆する点である。指定する講習会を受講し、登録した要支援者移送サポーターは、要支援者とともに定期的に訓練を実施して実効性を高めている。なお実際の避難では、要支援者避難移送サポーター 2 人 1 組で活動するとのことで、避難行動のタイミングは、高齢者等避難情報（有線全戸一斉放送）のときが基本（事前避難）になっている。このあたりは前述した通り、浸水や土砂災害といった一定予見できるもののへの備えになっている。令和 6 年 8 月台風第 10 号接近に伴う避難の際は、10 人が要支援者避難移送サポーターの支援によって避難したもの、6 人が屋内安全確保（垂直避難など）を選んだことは、今後の課題である。ともあれ、実効性のある計画の作成、誰一人取り残さない防災・避難の実現は参考にすべきところも多いと感じた。理論上の話になろうかと思うが、これにより公助による避難支援者数を 300 人まで抑制できているのも、避難の実効性を高めることに寄与していると感じた。

② 福知山市有償輸送ネットワーク（交通空白地）について  
この成果報告書をまとめた時点で福知山市では、8 つの福祉有償運送事業者（NPO 法人・社会福祉法人）と、3 つの交通空白地有償輸送事業者（社会福祉法人・地域協議会）が自家用旅客有償輸送を実施している。今回の視察先のひとつである NPO 法人福知山 BGM 福祉サービスが仕組み作りを行なった。同法人の荒川浩司氏が、コーディネーターを取得、他の NPO 法人、社会福祉法人の福祉有償輸送の講習を受け入れた。また運営費用やスタッフの確保など NPO 法

	<p>人の持続性を高める方策として、放課後デイやショートステイなど様々な福祉サービスと一緒にで実施する仕組み作りを行なった。このNPO法人福知山BGM福祉サービスの仕組みとともに福知山市に福祉有償輸送事業者が拡大していった。行政の対応としては福知山市が有償輸送運営協議会を設置しており、移動制約者の移動手段の確保、自家用旅客有償運送の適正な運営の確保のために必要となる事項などを関係者、識者、行政などで協議している。</p> <p>福知山市内に自家用旅客有償運送が拡大したこと、別の市民団体「シェア福知山会議」が誕生したことが契機で、有償輸送ネットワークから①福知山市災害時の要配慮者避難の有償ボランティアに発展した。平時だけでなく災害時の移動制約者の移動手段を確保する仕組みを市民団体の提案で実現したことは特筆する点である。課題としては、NPO法人や市民団体が中心となって様々な仕組み作りで持続可能な地域づくりを目指しているが、今回視察を行なった福祉有償輸送においては、運転者の確保が大きな課題であり、法人内部で人員のやりくりをしても事業が成り立たなくなってきたことのことだった。有償とはいってもボランティアへの依存度が高いと感じる部分も考えさせられる。ともあれ、福知山市の山間地域の過疎化、高齢化での住環境を察するに、大変重要な取り組みであることは理解できる。市民の市民による市民のための新たなプラットホーム事業体で持続可能な地域の実現を目指す「シェア福知山会議」の取り組みに期待したい。</p>
(4) 内容	<p>平時、災害時ともに移動制約者の移動手段を確保する仕組みについて、学ぶことができた。NPO法人や市民団体主導の仕組み作りについては、持続可能な地域づくりの手法として（犬山市においては地域特性から全く同じ手法が有効ではないと思うが）大いに参考になった。今後、交通政策を総合的に考える材料にしたい。</p> <p>犬山市に提言することは、移動制約者の移動手段の確保のためにも、小規模輸送について研究を進められたい。福知山市の場合は地域特性と前述の経緯でNPO法人や市民団体主導となったが、地域交通の基本は行政主導で、交通事業者との連携が重要と考える。住民と</p>

意見交換しながら、速やかな地域の交通体系の構築を期待したい。また、防災の面で、本市の個別避難計画について、災害時を想定した作成となっているか、点検し必要な改善をしておくことが重要であると考える。